

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層
 (6) 下末吉ローム層 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 59

標本名 下末吉ローム層 露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 0.7 m, 高さ 4.97 m

重量 9.3 kg

形状・展示・収納状況 薄い絨毯状、短辺を軸に巻いて
 大型移動棚に収蔵

採集地 神奈川県海老名市国分南（逆川の交差点から
 目久尻川に沿って南側に 400 m ほど先の右側にある
 市の資材置き場）

緯度・経度 N35°26'57", E139°24'10"

標高 40 m

露頭の種別と現状 造成地による人工露頭、消失

露頭面の向き、傾斜 不明

堆積物の種別 降下テフラ（陸成層）

年代 Hk-KIP2(125 ka) ~ Ata(105-110 ka) (町田・新井,
 2003)

採集作業者 海老名市理科資料地質調査研究委員会

採集日 1993 年 5 月 20 日

関連文献等

高橋正樹・内藤昌平・中村直子・長井雅史, 2006.
 箱根火山前期・後期中央火口丘噴出物の全岩化
 学組成. 日大文理学部自然科学研究所研究紀要,
 (41): 107-118.

解説 下末吉（吉沢）ローム層は最終間氷期 MIS 5.5
 (12.5 万年前) の海進堆積物を直接覆う関東ローム
 層である。標本は海老名市立図書館改修工事の際に
 海老名市教育委員会より寄贈された。採集地点の海
 老名市国分南の崖ではこの海進は及ばず、古土壌が
 残されていた。標本では下末吉（吉沢）ローム層の
 テフラ群のうち、KIP(Klp)-8 ~ KmP(Kmp)-7 までが、
 採取されている。これらのテフラは全岩化学組成から
 箱根火山の前期中央火口丘噴出物に対比されている
 (高橋ほか, 2006)。年代については、広域テフ
 ラの阿多 (Ata) テフラが 105-110 ka で、KmP-9 と
 KmP-10 の間に入る (町田・新井, 2003)。このこと
 から、125 ka ~ 110-105 ka という短い間に、次々と
 爆発的噴火が繰り返されたことが分かる。

記録者 笠間友博

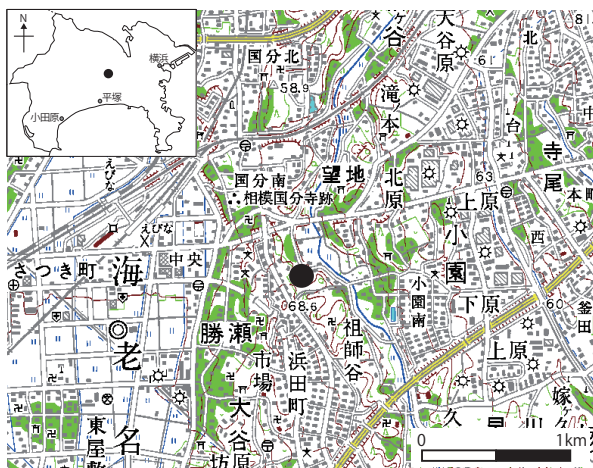


図 1a-6-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図
 画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。



図 1a-6-2. 海老名市図書館内の階段踊り場壁面に展示されてい
 た様子。

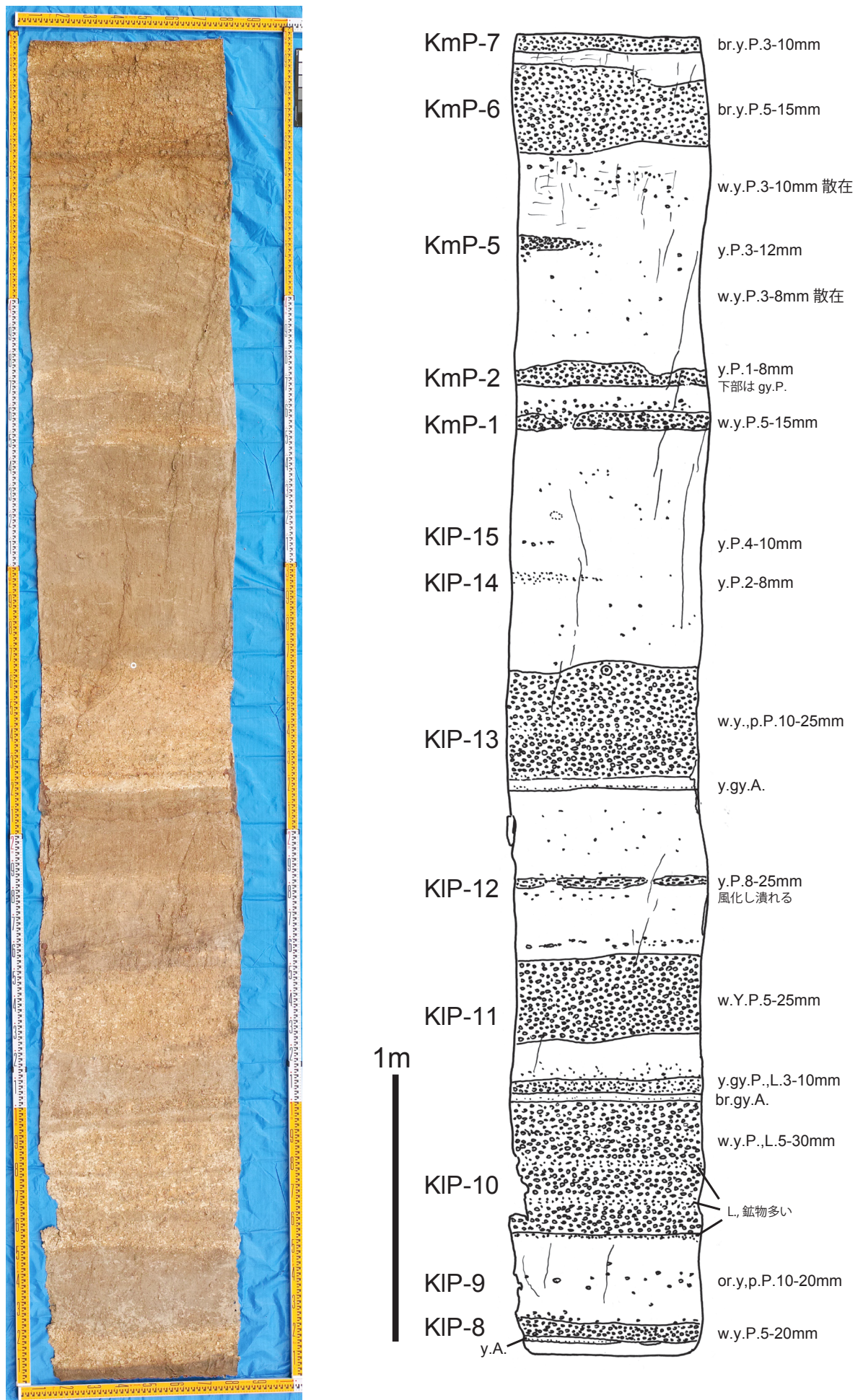


図 1a-6-3. 標本の写真 (左) とスケッチ (右, 笠間原図).